

こもれびメモ 2014

この“メモ”は主に会議での合意事項など、規約、規定を補足する約束事を中心にまとめました。“役割分担表”は別プリントにしています。約束事自体にある程度、曖昧さが残るのは避けがたいことであり、完ぺきということはありませんが、少しでも曖昧さを減らし分かり易いものとするために、ご協力をお願いします。

1.はじめに—事務的なこと

1.1 仲間を増やそう

会員を増やすことは、会と労山の活動の継続と活性化に不可欠です。会の活動によって自然と人間社会の健全さを保つことにも寄与できることを期待します。

1.2 定例会議

定例会議は、原則として毎月第一水曜日午後7時から石橋北会館で行っています。安全登山の大前提である仲間同士の信頼関係の構築には、**理屈だけでなく心の通じる(安全な)対話が重要です。**山行だけでなく、会議にもできる範囲で参加して、**日ごろ苦手とする対話のトレーニングもしたい**ものです。

1.3 会の役割分担

会員は対等平等が原則です。会を生き物に例えれば明らかですが、会員一人一人が会のいろいろな役割を(もちろんできる範囲で)分担しなければ、会の存在も発展も保証できません。重要な役割は複数で受け持ち、合理的に会を運営しましょう。お互いの負担を減らし、山行を増やせるように、役割そのものを工夫しましょう！**会の役割分担表**を参照。

1.4 “こもれび通信”

各号に次号発行予定日を書いていますので、山行計画と報告、その他の情報をお寄せください。止むを得ない時は、「通信」送付用メールアドレスを利用できます。ただし、大きな山行計画の発表は、参加者の都合を考えて、4か月前を目標に！

山行計画/報告を提出(送信)する際、“通信”あるいはHPIに掲載を希望しない場合は、“**不掲載**”と明記してください！間違いの指摘、通信への注文等、いつでもお気づきの時に連絡してください。ツアー山行については、スペースの関係で原則として掲載しません。

1.5 ホームページ(HP)

「山の会こもれびのホームページ」は現在の会の活動の様子(“あしあと”)と、公開山行の予告に重点を置いています。人名の公表は原則としてリーダー名のみ。情報源はおもに「こもれび通信」経由で会員から入る情報です。

慣例を気にせず、楽しい記事の投稿(写真も大歓迎)、情報提供や提案にご協力ください。編集済みのファイルをそのままUPすることも可能で、若干実例もあります。

掲載内容の訂正、削除等あれば何時でも遠慮なくご連絡ください。掲示板の改良にはまったく着手できていません。

1.6 会内の文書等の受け渡しについて

会では、「こもれび通信」以外はメール、FAX、郵送サービスは基本的に行っていません。総会に出席できない会員は、出席する人に総会資料を預かってもらってください(添付メール利用は可能)。それ以外の文書や物品の受け渡しについても、会議、山行の機会を利用する等、当事者間で工夫してください。

1.7 労山関連の情報

1.7.1 大阪労山関係の情報の取得

インターネットに接続可能な人にはOWAF-ML加入をお勧めします。加入登録すると、労山(大阪、全国)の最新情報が得られます。管理者または管理補助者(個人情報ですのでアドレスは伏せます)宛に「名前・所属会・登録希望のメールアドレス」を知らせれば登録できます。わからないときは、加入している人に聞きましょう。

※セキュリティのため、登録アドレスでも添付ファイルやHTML(リッチテキスト)メールは流せないの
で、メーラーの設定を「テキスト形式」に変更します。

※個人アドレスの問い合わせはできません。

※OWAF-MLのメールの不着の状態が続くと「シ
ステムによる配信停止」になります。

1.7.2 機関紙の回覧、購読について

「登山時報」(全国機関紙)は会に一部(事務局長
留め置き)、「大阪労山ニュース」(府連機関紙)は会
に4部(事務局長、理事、会長留め置き、回覧用に
各1部)しか来ません。留め置き分は1~2ヶ月後、
回覧にまわします。「ろうさんニュース」(全国)は3ヶ
月に1回、“登録人数”分だけ来ます。

いずれも、回覧&配布場所はおもに定例会議で
す。持ち帰りもOK、なるべく早く回してください。会で
は保存場所がないので、適当に処分しています。

「登山時報」の定期購読は、年間4416円払って、
直接自宅に送ってもらうのがベストです。

1.7.3 労山の会員証と優待施設

労山会員証を忘れずに携帯し提示すれば、優待
施設を利用できます。優待施設は、全国労山が交渉
して料金を割引する、山小屋、宿泊施設、登山用品
店、クライミングジムなどのことで、全国各地にあり、
全国労山(JWAF)のホームページで一覧を見ることが
できます。労山会員証を失くすと再発行に500円
が必要になります。

1.8 会計について

会には一般会計と公開ハイク特別会計があります。
会は日本勤労者山岳連盟(労山)に加盟し、労山は
一定の考え方(趣意書、総会決議など参照)に基づ
いて、全国的に活動を展開しています。そのため、連
盟費等のいわゆる「上納金」が一般会計の支出の少
くない割合を占めており、その内容については、労
山全国連盟や大阪府連の定期総会で報告されま
す。

1.8.1 会費の振り込み口座(口座名は新特 別基金口座と同名につき注意)

ゆうちょ振込口座名:「ヤマノカイ コモレビ」

店名:よ or ヨ を入力 408 を選択

口座番号:普通預金 5709740 5000 円

4月1日~25日納入です。

1.8.2 旅費などについて

会は創立以来、“会費を安く”の方針をとり、会
の一般会計は、必要最小限の経費で成り立っています。
そのため、大阪労山の総会代議員や理事に会議出
席の都度旅費を出す以外は、各種行事への参加費
の補助などはしていません。会を代表して参加する
ケースでも明確な基準はなく、要求にしたがいその
都度検討されることとなります。

1.8.3 公開ハイク特別会計関連

①バスハイク以外の参加費は標準500円とする。

赤字を出さない条件で500円以下も認める。

②バスハイクの参加費は、バス代、運転手謝礼、
高速道路料金、保険掛金、下見代などの諸経費に
ほぼ見合うように、行事毎に設定する。会員割引=
¥500が永年の慣行となっていました。維持できな
い可能性がある。

③できれば、行事実施日当日に清算する。下見代
等

参考:貸し切りバス代は2014/4から大幅な値上げ
(5月加茂観光廃業) 中型バス、ハイシーズン土日祝
10時間以内400キロ以内 85000円(目安)、ボランティア
保険600円、運転手謝礼3000円(慣行)。

④下見代(交通費)は、下見の時点で出します(標
準は2人1回分)。本番不参加の場合は受け取り資
格はなくなる。公開ハイク本番を延期して実行する場
合や下見の結果、本番コース変更の場合も出す。

⑤キャンセル料徴収は、名目だけ(実行困難!)

2. 山行について

2.1 山行の分類と計画性

便宜上、「こもれば通信」で全会員に知らされた山行を会山行、それ以外の山行を個人山行と呼ぶことにしています。会山行は他会でふつう例会と呼ばれているものに相当します。

十分な数の会山行が会として数か月以上前から計画されスケジュール化されているのが会員にとってのぞましいことは当然で、泊まり山行については昨年末から、年間計画が立てられ、前進が見られました。しかし、日帰り山行計画は絶対数が不足し、個人山行に頼っているのが実態です。

入会希望者の中では日帰り山行しかできない人が多数を占めるため、多くの人に入会してもらうためには、これは大きな弱点であると言えます。

仮に計画が暫定的で(日程等の都合が不明確で)あってもできるだけ早く(できれば実施4か月前ぐらい)に公表されるよう、リーダーの皆様の協力をお願いします。計画公表が早ければ、リーダーの交代も容易になり、中止の可能性を減らせるのではないでしょう。

2.2 山行の難易度

表は比較的わかりやすい他会のものを無断借用しています。公開ハイクを含め、“初心者向き”や“初級”相当の計画は少なくなりがちです。希望者の具体的な要求を出なければリーダー好みの山行が増えるのは当然です。

初心者向き	4~8km	初心者、小学生、高齢者が楽しく歩ける。集合が遅く、帰りが早い。
初級	8~12km	厳しいコースは中級
中級	12~20km	厳しいコースは上級
上級	20km以上	

2.3 山行のリーダーと参加者

技術、体力、知識はもちろん重要だが、リーダーのあり方はいろいろある。いずれにしても山行は(リーダーの技量とは関係なく)リーダーを中心にまとまって、行われる必要がある。それが守られなければ、とくに困難な山行や緊急事態では、パーティーがバラバラになり、パニックに陥ることになる。

すべての山行について、リーダーは参加者の万一の事故に留意する必要がある(保険加入など確認)。

リーダーが「楽しく安全な」山行を行う上で責任を持ってないと感じれば、それを理由に希望者の参加を断ることはあり得る。逆にリーダーは(もちろん万一の事故に留意した上で)非会員を山行のメンバーに加えることが許される。

山行中、少数の者が先行したり、逆に遅れて見えなくなることがよくある(悪天候や難路のため渋滞している間に、一部のメンバーがドンドン行ってしまふなど)。たとえば昼食時や、わかり難い分岐に来て、先行者との情報伝達ができない場合、先行者は無視されても仕方がないことを知っておく必要がある。

リーダーは重い責任を負うかわり、(もちろん能力の範囲で)思いのままに山行を計画し実行することが可能である。積極的にリーダーを引き受けて、夢の山行、理想の山行を実現したいものである。

2.4 公開ハイクについて

公開ハイクには、会の宣伝およびボランティア活動の意味もある。計画の内容、子供の参加の可否、天気等による山行実施可否の判断についてはリーダーに一任している。

現在、8月と12月は休みにして、年に10回程度行っている。しかし、回数は固定的に考える必要はない。

2.4.1 長期的な計画を

計画性については、2.1も参照。

会議では時間が不足し、1から議論すると決まらないので、リーダーと担当月を早めに決め、リーダーに計画立案を一任する方式を採っています。会員拡大の主要な機会ですので、みんなで楽しい企画を出しましょう。ハイキングだけでなく、地図読み学習会など、新しい企画も歓迎。

★貸切バスは早めに抑える必要があります！バス会社との交渉は半年以上前に行いましょう。会で主体的にナビゲートしないと道迷いでタイムをロスしたり、不要な駐車料金を支出した前例があります！泊まりのバスハイクは2012年9月に古座川で初めて行いました。

2.4.2 公開ハイクリーダーがすること

実施日前には：実施月日、行き先、集合場所時間を、実施月の前々月（月初め実施の場合はその前月）の20日過ぎには決定（池田市広報対応）。コース等の詳細は実施 30 日前（新聞投稿）。

実施当日は：公開ハイク用品（旗、腕章、帽子、リボン）、入会申込書、全員に配布するちらし（内容はコースマップのほか、班分け名簿、参加者への注意、次回の予告などを適当に）を用意する。そのほか、集金、会計処理、準備体操などもあり、終了後は、山行報告、収支報告と経費の精算を行う。

公開ハイクスタッフ：参加会員全員がスタッフです。スタッフの助けなしには、だれもリーダーは務まりません。とくに忙しい集合時や、トラブルがあった時は、バックアップを忘れないでください！

落伍者の付き添い L,SL は本隊に残り、付き添いは原則として他のスタッフに任せましょう。

2.4.3 一般参加者受付がすること

一般参加者受付窓口、ボランティア・市民活動行事保険加入手続き、保険加入書と加入者（一般参加者）名簿の用意。**公開ハイク当日に参加できない場合、保険加入書と加入者名簿は当日の参加者＝スタッフに引き継ぎます。**

2.4.4 公開ハイク一般参加者の事故

①ボランティア・市民活動行事保険（社会福祉協議会）、

注）「・・・ボランティア行事保険は、参加予定者（ボランティア、一般を問わず、）すべての人数分（最低20人分は必須）をかけることになっている」が、便宜上一般募集人員20名分だけをかけて、**一般参加者の事故のみに適用することになっている（中身は過剰にかけていることになるが、厳密にいうと会員を含む全参加者数が20名以上なら違反行為となる！！）。**

②労山新特別基金の見舞金制度

条件＝「労山新特別基金」の加入者がリーダーで、労山の加入団体が主催する公開山行。

交付金額は、3 日以上入院または 20 日以上長期通院 10 万円、短期通院（3～19 日）3 万円等。

で対応します。

2.4.5 公開ハイク中止の場合

実施日中に池田市社会福祉協議会（072-753-8858）へ直接、または**一般参加者受付窓口**を通じて連絡する→保険料回収のため。

リーダーを目指す人への推薦テキスト

“ハイキング セカンド・ステップ”

ハイキングリーダー養成テキスト 第2版

日本勤労者山岳連盟 ハイキング委員会編 ￥400

2.5 山行参加の意思表示は早めに

リーダーは、適切なコースの選択、宿泊や交通機関の予約等のため、参加人数を早く把握したい。そのため、参加の意思表示は遅れないようにしましょう。参加したいが参加できるかどうかわからない時も、その旨を早く伝える方がよい。

2.6 山の装備について

山の装備は目まぐるしく変化するので、仲間や専門店や専門雑誌などから情報を入れ、慎重に入手しよう。泊まり山行の装備は一人 10～15kg程度（うち共同 2～3kg程度）になる。市販の山行装備は年々軽量化しているが、個人が担える重量も年齢とともに減るから、一つひとつの装備の購入は慎重にしたい。寝袋は、夏なら羽毛 135gのもので間に合うし、冬でも羽毛 400～450g以上のものはほとんど必要ない。靴、ザック（大）は軽いだけでなく身体に合うことも大事。アイゼンは重さや爪の数だけが問題ではなく、素早く着脱でき、しっかり“利く”ことが重要。雨具、ヤッケを兼用できるジャケット（雨具との大きな違いは腋の下を開閉できること）は年々良いものが出る。高価だが、持参する衣類全体の軽量化につながるので購入の優先順位は高い。**ダウンやフリースのジャケットはそれぞれの長所、短所に注意。**下着は薄手のウール、化繊の重ね着が常識化している。ポリエステル系半袖2着は欲しいが、それ以外は**季節と本人次第の面**もある。

2.6.1 山行の共同装備

会としては装備を所有していない。車、テントなど個人の装備や持ち物を共同で利用するときは、参加者が常識の範囲内で必要経費を（装備ではないが、**下見**

代、通信費、調査費なども)負担しよう。会としては、救急用品・医薬品を所有し、維持・管理するだけの人的余裕がない。

2. 6. 2 ピンチバッグ

一例＝・自分用の救急用品、テーピングテープ 25～35m
m、・三角巾(L型)、6mm細引き(テープ)5m＝安全ヘルム用、
6mm細引き 1.5～2m＝プルージック用、・カラビナ2枚、・封筒
型ピンチシート(レスキューシート)、・ライター。大きな山行で
は、1パーティーに 6mm細引き 20m、ツェルト。

リーダーだけでなく、山行メンバー全員がピンチバッグを持つようにしよう。ピンチバッグの中身(上記の枠内に一例)は、外傷への対応が主であり、飲み薬などは個人専用を原則とする。薬や救急用品はいくらあってもこれで十分と云うことはあり得ないから、**みんなが**少しずつ自分が必要とする物を持ち、必要に応じて融通しあうのが実践的だろう。山では、例えば 6mm細引きとカラビナ2枚(1枚は安全環つき)にしても、みんなが持っていれば、プルージック用だけでなく、繋いで長いロープの代用にするなど、多様な用途がある。持てる装備を救急用に役立てるため、“4月初めの近プロの訓練”などで、必要な知識や技術を仕入れよう。

2. 6. 3 携帯トイレを利用しよう！

携帯トイレ(小 110 円→府連、要予約)とトイレ用テントを会で用意しています。

携帯トイレ持参を要求される山が増加しています(とくに、百名山等、人気のある山！)

JR大阪駅の集合場所について

御堂筋口改札口内外の7, 8番線直下付近とします。“**いかりスーパー前**”ではありません。

改札口の内側のエレベーターや階段に7, 8番線の表示があり、改札口の外側からも見えます。判らない時は駅員に聞いて下さい。

3. 安全と登山届について

3. 1 山行の安全は自己責任で

山行リーダーがパーティーの安全確保に努め、メンバーがリーダーのリーダーシップを尊重し、安全な山行に協力するのは当然です。一方、全参加者が自分の身の安全に責任を持つこともまた当然です。責任を全うすることは容易なことではありませんが、“**自己責任**”の意識を持つか持たないかは、**山行への参加資格に関わる**ことです。

不幸にして事故が起こった場合には、いたずらに責任追及に走るのではなく、事故を科学的に分析して、再発防止の教訓を引き出すことが重要です。

山岳事故に限ったことではありませんが、マスコミでの事故や事件の扱いは、被害者対加害者の一面的な見方に陥り、責任を一方的に追及する傾向がありますので、日頃から考えておく必要があります。

★山行は基本的に自己責任の上に成り立っていることは、本人が自覚するだけでなく、日ごろから家族などにも周知させる必要があります。**入山前には家族や周囲に行き先など、正しい情報を伝えましょう。**

3.1.1 山で事故に遭遇したら

★事故が起こった時は、**事故者本人のことより残った者の実力を考え、安全第1で冷静に行動**すること。(慌てて助けに行き、二重遭難となる例が多い)

★遭難者の早急な社会復帰を考え、躊躇なく救助へりを呼べ(可能なら本人の同意をとる)

★遭難した他のグループから救助要請を受けた場合、**できないことを安易に引き受けると責任が生じて、途中で引込みが付かなくなることがあるので、注意が必要である！**

3.2 事故は避けられないが減らせる

人間はミスを避けることはできませんが、技術的に減らすことはできます。山の事故で多いのは、道迷い、転倒、転滑落、病気、疲労、落石、悪天候、野生動物関係ですが、道迷いが圧倒的に多く、他の事故も道迷いが絡んでいることが多いのです。したがって事故を減らすためには、**地図読みとコンパスの習熟が重要**です。また、GPS や天気予報の進歩は目覚ましく、山行においても有力な武器となりますので、若い人は習熟に努める価値があります。大阪労山でも、これらの技術について学習会などが取り組まれています。

最近は、ストック折損事故も多いそうで、身体能力とともに道具の正しい使い方が大事であるといえます。

3.2.1 野生動物関係

野生動物関係では、**日本で最も危険な動物はスズメバチ**です。ヒグマのほか、猪、鹿、猿、マダニ、ヒルの害も増えています。遭遇する可能性がある場合には、これらの生態についての知識が必要になります。マダニは、里山から町中の藪まで動物が歩くようなところには意外にたくさんいて、重症熱性血小板減少症候群を媒介する(**SFTS ウィルス**)ことが最近確認されて話題になっています。取り付かれたら、皮膚科で除去してもらうのが無難です。

3.3 グループ山行の一般的注意 大阪労山理事会で

①リーダーは、全員のトレーニング状況を把握していますか？②体操、ストレッチだけでなく、歩き始めの1時間はウォーミングアップ。バスを降りて出発まで時間をとる。③体力のないものは前の方に。ルート判断の必要なところでは、2番がペースメーカーとなり3番をリード。④水は夜のうちにとる。行動中も早めにとる。⑤歩くペースは**弱い人の脈拍で決める**。**歩き始めは最高脈拍数の60-70%を超えない**。最高脈拍数とは220-年齢。⑥歩きはじめの1~2時間の間の休憩で、脈拍が出発時の脈拍まで下がらなければ、ウォーミングアップができていないと判断。⑦心肺機能の強化と腹式呼吸の指導を。

これなら毎日続けられますよ！

「山筋ゴーゴー体操」

労山女性委員会編、

¥200+送料(送料6冊まで80円)

3.4 山行届、下山報告

各山行のリーダー(単独の場合や、他会山行に参加する場合は山行者)は山行管理者に山行届(山行計画書)および下山報告を提出する。リーダーが他の人に届出を委任する場合はそのことを明記してください。

★山行届は手渡し、メールまたはFAXで時間的に余裕を見て提出する。FAXよりメール歓迎！

★山行届、下山届とも提出先は、会の緊急連絡先である、**山行管理者4名全員**とします。携帯電話から4つの宛先に同時発信する場合は、方法の習熟に努めてください。泊まり山行では、あらためて文書で山行報告を行う。

★**泊まり山行の計画書には下山報告の日時を明記する。報告期限を過ぎても報告がないと、「遭難」扱いとなる！**

★**下山報告をたびたび忘れる人は、遭難しても気付かれず放置される可能性が高くなる。**

★**下山報告でも、実施日、行先、リーダー名(、報告者名)を忘れずに。**

★**届け出用紙はHPからDL(ダウンロード)できる。要件を満たせば別の様式でもよい。**

★山行届け、下山報告に対する返信は省略する。

3.4.1 日帰りの山行届の特例

“便宜上”、**実施日時、リーダー、メンバー名、行き先、(できればコース、入山口、下山口)などポイントを押さえて**、出発までに、電話、FAX、メールなどで届け出ればよいことにしている。しかし、**労山新特別基金の給付申請時には、“正規の”山行届が必要となるので注意。**

3.4.2 2会員が指揮権をもたない山行

他会やツアー会社の山行など、**会が責任を負わない(会の山行管理規定)山行でも、労山新特別基金の対象にはなり得る**。また、**外国の山への山行も同基金の対象となる**。主催団体名とリーダー名、**連絡先を明記のこと。**

3.4.3 こんな場合は？

車山行で遠方に行き、日帰りハイキングを複数日にわたって繰り返すような場合、各山行を日帰り山行とするか、全体を一つの泊まり山行とするかは、本人がよく考えて決める。届出の仕方によって、下山報告の仕方も異なる。

3.4.4 山行届の必要性についての論争

“100%自己責任の山行では届出は不要”との意見がある。しかし、無届登山で行方不明となり、何百人もの人の何日にも及ぶ時間を浪費したケースが実際にある。登山は社会と無縁な個人的行動に見えるが、実際には無縁ではあり得ず、本人と会の社会的責任という観点からは、届出必要論も当然出てくる。会での議論はここにとどまっている。

3.4.5 会の緊急連絡体制

★緊急連絡先は、会と家族の両方に決めておく。

★下山通知期限を過ぎても連絡がない場合、救助活動の準備が一(地図の入手)から始まる。**遭難前から準備することはあり得ないし、無理な出動は2重遭難につながるので、行動開始はさらに1日程度遅れると考えなければならない。**

・大きな事故が起こった場合、まず会の緊急連絡先に連絡し、冷静な判断のもとに最善の対応策をとることが大切。

事故発生(本人・パーティ)

↓

緊急連絡先(家族ではなく、会員で指定された者)

↓

遭難責任者＝山行管理者(つぎの順に連絡つくまで)

佐々木→小森田→宮原→太田

↓

緊急役員会 ――― 対応協議

↓

府連・救助隊など関係部門へ連絡

3.4.6 労山大阪府連の救助隊

互助組織で、連盟加盟団体の救助(訓練)を行う使命を負っている。 隊員登録窓口：
owaf_rescueteam@yahoo.co.jp

後方支援もあるので、だれでも歓迎とのこと。“こもれび”では個人登録はわずかにあるものの、個人的にも、会としても実際の取り組みはできていない。

3.4.7 事故に備える

3.4.7.1 労山新特別基金

遭難基金から名称が変わりましたが内容はほぼ変わらず、「民間の保険とは異なり、万一の災難を仲間で支え合うもの」です。

★事故交付(給付)の対象は登山口から下山口まで。

★ハイキングマップの実線コースなどの軽登山では定められた交付率の3倍交付の特典があります。ただし上限は10口相当。

★事故の主因が疾病の場合、交付は2/3倍！

★救援者の交通費、5万円まで(海外はだめ)。

★海外登山については全国連盟海外委員会への届出も必要です。

★遭難者が新特別基金に加入していれば、仲間が救助に用いた個人装備は新品で保障されますので、仲間同士で支え合うことにもなります！

★無届山行や観光旅行は、労山新特別基金の対象外となります。

★会では、アルプス級の山に登る人には、5口以上の加入を勧めています。

★無事故報奨金新設—10年無事故の会へ

3.4.7.1.1 新特別基金のゆうちょ振り込み口座(口座名は会費口座と同名につき注意)

貯振込口座名:「ヤマノカイ コモレビ」

店名:14170

口座番号:66053951 1000 円×口数、

6月中に1年分前納です。

3.4.7.2 全国労山が関与する民間保険

◎労山・個人賠償責任プラン(賠償責任危険担保特約付帯普通傷害保険＝労山会員専用)

登山、クライミングでの本人の死亡・後遺障害事故、および日常生活での万一の賠償事故に備える。後者は同居親族の賠償事故や訴訟費用もカバー。保険料年額 2400 円。 代理店:(有)セブンエー

4. 自然保護部

労山の自然保護活動は歴史があり、傘下の各会でも自然保護部が設けられ、全国一斉などのクリーンハイクの他にも、植物動物菌類や自然破壊の観察、防止活動など多彩な活動が行われています。今季から自然保護部長が交代したのを機に、会員の創意工夫により活動が活発化することを期待します。

4. 1 活動

こもれびでは会の発足以来、自然保護部の実体はほとんどなく、会全体として6月の第一日曜日に五月山で全国一斉クリーンハイクに取り組んでいるのが、おもな活動です。また、毎年12月に行われる箕面の山パトロール隊主催の箕面の山大掃除大作戦(昨年は第10回)にも、会から参加協力しています。

大阪府連自然保護委員会は、大阪府連自身および関連団体の様々な活動(たとえば、最近では鳥獣目撃情報の収集と提供(4. 2参照)、自然観察会、自然保護交流ハイク、ナチュラリスト入門講座(知って防ごうマダニ被害)、山で放射線測定(大文字、比良)、里山調査(自然環境保全協会4月)、大峰立枯れ調査、若草山モノレール設置反対署名など)にも取り組んでいます。

4.2 山での鳥獣目撃情報の提供

自然環境の変化によって、生き物の生活環境が大きく影響を受けているのはご承知の通りです。このような山岳自然の生き物の観察情報こそ、山に頻繁に

出入りする登山者に対して、もっとも期待されている自然保護活動です。

標高500m以上の山であなたが野生鳥獣を目撃したら、owaf か澤村秋則(府連自然保護委員長)さんに報告してください。できたら写真を撮ってください。

1) 雷鳥目撃情報は雌雄を見分けて――

雄: 目の周囲の黒毛が嘴まで連続。

雌: 目と嘴の間が白っぽい。

目と鼻の先でライチョウを観察できる国は世界広しいえども、日本ぐらいだそうです！！

2) 獣は全て対象です＝くま、しか、かもしか、おこじよ、サル(例、上高地、河童橋ビジターセンター付近で群れ)、いのししなど。

3) 昆虫も＝ハルセミ、エゾハルセミ(例、上高地)、チョウなど。

4) 植生の変化＝ナラ枯れ情報など＝を知らせよう。

大阪でも、ナラ枯れが急速に広がっています。これにも昆虫(カシノナガキクイムシ)や温暖化が関係していると言われます。

以上

2014/09/06

文責 小森田